

「おりあい」

すでにある許容 共生のヒントに



リサーチを元にしたアートプロジェクトという事で、「おりあい」をテーマにしようと決めた。しかし一度決めてみると、このテーマはあまりにあたりまえだった。「おりあい」を「つぎ」に生活している人なんて見当たらないくらいにありまして、改めて持ち出すことに引け目を感じてしまう。それでも、「多様性」とか、「ソーシャルインクルージョン」とか、「共生社会」、「ハッカソン」、「シェアリングエコノミー」といった異なる者間の交流が意味に含まれる言葉が話題に上がる現代で、「おりあい」を改めて持ち出す意味は多少なりともあると思いつつプロジェクトを続けてきた。



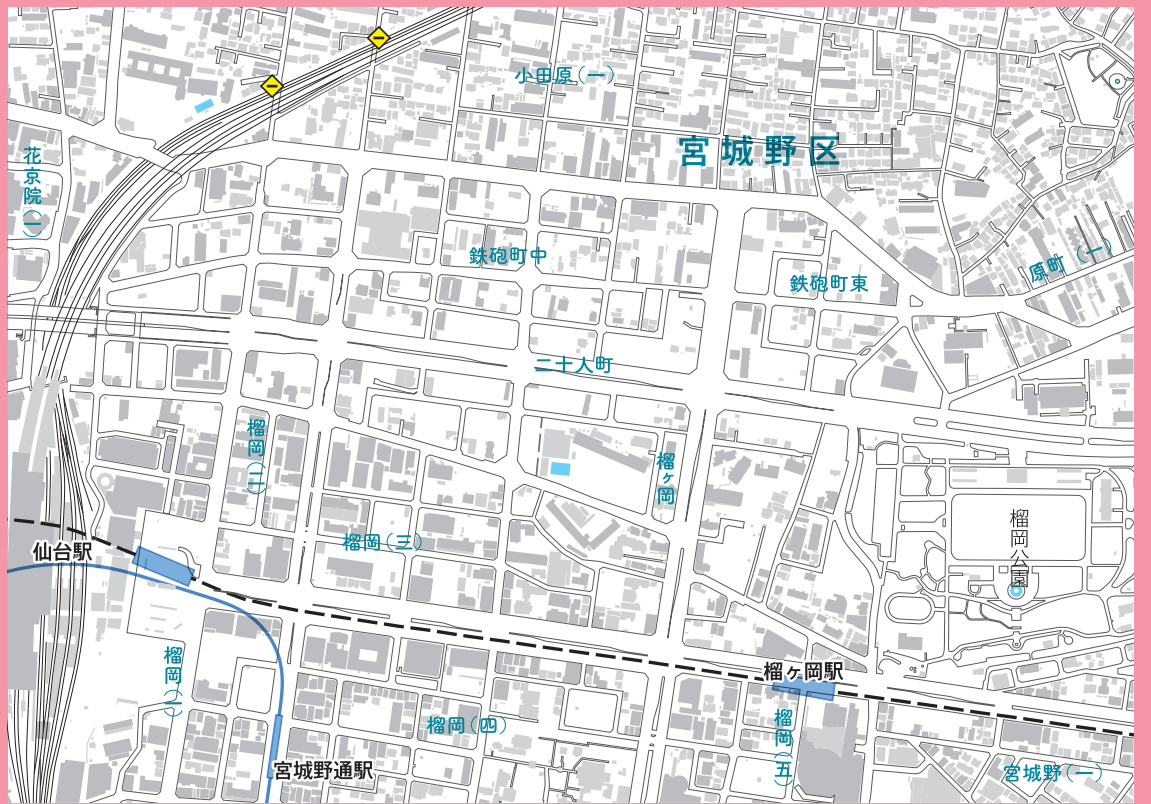
鳥取県鳥取市(旧河原町)にて撮影

「今日買い物行けなかったからあり合わせでごめんね」と言われながら、オムライスが出てきたことありますか?卵、ご飯、ケチャップ。それぞれはごくありふれたものなのに、オムライスになった瞬間に一気に特別になったりして。おりあいの先にそんなものを期待してしまいます。



「曲り角」が語る歴史 町のおりあいとは

地図の多様な表情
「おりあい」は人が意識的につけるものもあるけれど、無意識にするものもあるなあと考えていた。ということは、人に限らなくても他にもあるかもしれないと探していた。そんな時、ふと一昨年、長野県上田市で聞いた話を思い出した。ゲストハウス立ち上げの手伝いのために上田を訪ね、依頼主である地元の方に町を案内してもらっていた時のこと。そこで袋町という所を通り掛かった際、今は歓楽街となっているが、江戸時代には下級武士が住むエリアだったため、敵の侵入を限定するために町への入り口がひとつしかなかったという。さすがに入り口は増えたが、区画は今でも残っているという話をされていた。そういえば、静岡県静岡市の池田では、町の路地はか



国土地理院「数値地図」を元に加工

お問い合わせ
せんだいメディアテーク企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
電話:022-713-4483/FAX:022-713-4482
メール:artnode@smt.city.sendai.jp
URL: http://artnode.smt.jp/

アートノードとは?
2016年度よりスタートした「せんだいアートノードプロジェクト」の略称です。
「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐ、せんだいメディアテークのプロジェクトです。
この企画も「アートノード」の一環として行われます。

DESIGN: ANTWORKS この紙はリサイクルできます

ぎ型に折れている箇所が多くあり、敵を一直線に城へ向かわせないようにした道の跡だと聞いたこともあった。そのような地形の上に人の暮らしをのせ建物や町があり、時代とともに更新され続けていると考へたら、地図から「おりあい」を痕跡として見つけることができるんじゃないかと思いついた。そこで株式会社地理人研究所の今和泉隆行さんに相談してみることにした。
地図好きの中でもどちらかと言えば、都市部に関心が高いという今和泉さんは、過去の町並みの上に、生活様式も変わってきた現代の町を重ねた痕跡を見つけることができるかと教えてくれた。例えば、地方鉄道が廃線となった跡地を活用した部分は、土地の幅の狭さやその曲がった連なりが、周囲の直交した道の中で微妙に浮き上がって見えている、と今和泉さんは地図上で仙台市の榴岡公園辺りを指した。仙石線が地上を走っていた時の線路に沿って建てられていた堅牢なマンションは壊すことができず、曲がった道路がそのまま残ったとか、町の境界線として痕跡を残しているという。
都市計画とそこで生活を積み重ねてきた住民の事情のすり合わせがそこにはあったように思うし、もしかするとそこには激しいやりとりがあったのかもしれない。他に多々あるこうした「おりあい」が多様な表情を地図または町に加えているように感じる。

見事なおりあいですねえ

せんだいメディアテークのアートノード事業の一環として、調査活動を続ける鈴木一郎太。イギリスでアーティストとして10年活動した後、同氏の活動は作品制作から、「場づくり」へと変化。これまでコミュニティスペース運営、研究事業企画マネジメント、展覧会ディレクションなどの仕事のほか、ゲストハウスや障害福祉施設の立ち上げアドバイザーなど活動は多岐にわたる。様々な人の交流を目の当たりにしてきた鈴木一郎太が見出すテーマは「おりあい」。誰もがごく当たり前に行う営みこそが、多様性が叫ばれるこの時代における共生のヒントだという。

となりの おりあい

ori-ai.com

「おりあい」をテーマとして進めたこのプロジェクトのコンセプトサイト。写真や映像など、「おりあいフェスタ」の素材をご覧いただけます。



となりの おりあいの

鈴木一郎太(すずきいちろうた)

株式会社大と小とレフ取締役

静岡県浜松市生まれ。イギリスで10年ほどアーティストとして活動後、NPO法人クリエイティブサポートレッツにて、深澤孝史と起草した「たけし文化センター」事業の様々な分野と連携した企画を主に担当。2013年、建築設計から企画、必要に応じてハードとソフトを連動させて扱う会社を、建築家とともに設立。NPO法人こえとこころとことばの部屋(ココルーム)理事。



ドライヤーのおしりに吸い付くピンポン玉(静岡県浜松市)



一軒一軒が離れて点在する散居村では、木を植えて風よけにしています(富山県砺波市)



トイレ(不明)



岡山駅と出雲市駅を繋ぐ特急「やくも」の渡り板(鳥取県米子市)

となりの

逆境を生き抜く力 川柳にうなる



乗り越える力の断片

仙台には20年も続く高齢者向けのフリーペーパーがある。「シルバーネット」というそのフリーペーパーは、毎月3600部を発行し、取材から配布まで発行人である千葉雅俊さん一人が担っており、しかもそのほとんどが廃棄されず読者の手にわたっているという。そんなシルバーネットの名物コーナーが「笑いあり、涙あり シルバー川柳」だ。

60代半ばから、上は100歳越えのおじいちゃんおばあちゃんの詠んだ力作がずらりと並んでいる。しかも毎号150以上もの句が1ページにびっしりと載っている。もちろん文字は小さくならざるをえないし、読むだけでも「苦勞だろ。しかし千葉さんに話を聞くと、みなさん熱がとて高く、常連さんもたくさんいるという。また掲載された句から見ず知らずの詠み人に想いを巡らせたり、オフ会のように旅行が企画されていたり、投稿から派生したエピソードも数多くあるようだ。

そして、そんなシルバー川柳を読んでいると、たくさんのおりあいがある。このプロジェクトの一環で、千葉さんのご協力で「折り合い」をテーマとした川柳の募集をさせていただいたが、年齢、夫婦関係、家族関係などもそもそもシルバー川柳には多くの「おりあい」が含まれている。

- 腰曲がり 目元パッチリ 付けまつげ(81歳)
- 青汁で 女子力あげて 華やかに(87歳)
- 化粧やめ 女引退 八十路坂(86歳)
- 男でも 女でもなく 二人いる(74歳)
- 世の女性 美人に見える 白内障(73歳)
- 愚痴るのは 明日に決めた サンマ焼く(79歳)
- 寝室で 隠れ手酌で 天を待つ(81歳)
- 趣味減らし 道楽捨てて 妻介護(83歳)

困難や逆境や自由にならない状況に対する投稿者のみなさんの心持が汲み取れるようなものがたくさんあり、「見事なおりあいですねえ」とうならせられるものも時折見つかると。まったく同じ状況ということはないにしても、こうして困難や価値感の違うものや状況を生き抜くすがすがしさに備わっていて、誇らしげな、勇気づけられるような気分にもなる。

シルバー川柳おりあい評

過去シルバーネットに投稿された川柳を、おりあい：目線でよみとく。

もういっか 恥はかき捨て 年のせい

「郎太コメント」生活の中でスタンスの折り合い。「年のせい」としてしまっただけなの、はたまた固執したプライドから自由になろうという前向きな気持ちか、押し量る楽しさがある。

野菜鍋 高値になれば もやし汁

「郎太コメント」率直な家計のおりあい。家計が圧迫されれば安価なものへと移行する。ただそれだけのことなのにぐっとくる。もやしが安価の代名詞となっているのもおもしろい。

女房に つける薬が 見つからず

「郎太コメント」普段から奥さんにおっしゃっているのか、堪えていらっしゃるから詠んだのか、いずれにせよ、心と普段の姿のおりあいを感じます。

ミサイルの ニュースを聞いて チョコを食べ

「郎太コメント」のんびりとされているのだろうか。そうだとしたら、周囲の方からはゆつたりした方だと評されていそうですが、案外ご本人はそうした呼吸置くという冷静さを保つて、慌ててしまう状況のおりあいをつけるすべとして体得されたのかもしれない。

遺伝子の 台本どおり 皺が増え

「郎太コメント」あらがえないものとの折り合い、言葉の間に含まれる思いはどのようなものか。

負けないぞ なんて言わずに 負けちゃえよ

「郎太コメント」しなりさえあれば強い、そんな折り合いのスタンス。

タンポポが 背伸びしている 木陰みち

「郎太コメント」植物に見る折り合い。「折り合い」譲り合い」に限定されない折り合いの形。英訳とされている compromise は意識としては疑問を感じる。人間以外に人格を投影する日本人らしい感覚があり、折り合いにいらしただけでなく、強さを加えてくれる。

～“理解できない”とか言ってる場合じゃない時にはちゃんとみんなやってること～

タイムスケジュール

- 10:30 あいさつ
 - 13:30~14:00 川柳“おりあい”講評 千葉雅俊、西川勝
 - 14:00~14:30 トーク
- 「“おりあい”はもうちょっと評価されてよくないですか？」
西川勝、鈴木一郎太

展示 10:30~17:00

一見なんともなさそうな物事だけど、よく見てみると“おりあい”が表れているようなものやストーリーを、いろいろな形で紹介します。

- シルバー川柳のおりあい～シルバーネットから～
- 映像でみるおりあい「〇〇〇〇の苦手なようへいくん」 鈴木一郎太
- 地図の中のおりあい 今和泉隆行
- 田澤さんが見かけたおりあい 田澤絃子
- 写真展示「おりあい風景」

参加コーナー 10:30~17:00

参加してくれた方には“ちょいたし”グッズが当たるくじびき券をプレゼント。

- 「シルバーネット千葉さんと川柳の会」
設定されたテーマに沿った川柳を詠む会。午後には講評会も実施します。講評は13:30までに投書された句を対象として行います。講評13:30~14:00 千葉雅俊、西川勝
- 「あなたの周りの“あたりまえ”」
自分ルールや、家族ルール、学校や会社、仲間内では“あたりまえ”になっていることを教えてください。

“ちょいたし”くじびき 10:30~17:00

参加コーナーに参加してくれた方にお配りするくじびき券で参加できます。いつものアレに変化を加えてくれる“ちょいたし”に使える調味料などが当たります。

トーク 14:00~14:30

「“おりあい”はもうちょっと評価されてよくないですか？」

理解できないこと、知らないこと、不測の事態など、私たちの生きる社会の中ではわからないことの方が断然多いです。そんな中を生きてきた私たちにとって“おりあい”をつけることはあたりまえのことです。でもそのあたりまえにできている“おりあい”こそが、不安定な社会を生き抜き、新たな交流を生み、新しい展開をつくりだす源になっているのではないのでしょうか。こんな正解のない問いかけを臨床哲学者の西川勝さんに行ってみようと思います。
出演:西川勝、鈴木一郎太

展示

田澤絃子(たざわのりこ)

1982年山形県あつみ温泉生まれ。民間企業勤務を経て、2009年より公益財団法人仙台市市民文化事業団に勤務。2011年からは東日本大震災で大きく被災した仙台市沿岸部の生活文化に焦点を当てた「RE:プロジェクト」事業や市民参加型プロジェクト「聞き書き—あの人に会いに行く」を担当し、多様な地域資源の可視化に取り組んでいる。2016年4月よりせんだい3.11メモリアル交流館交流係に配属。他に、大震災後に立ち上がった市民団体のサポートにも取り組んでいる。

展示

今和泉隆行(いまいずみたかゆき)

株式会社 地理人研究所代表取締役
1985年生まれ。7歳の頃から空想地図(実在しない都市の地図)を描き、大学生時代に47都道府県300都市を回る。2015年に(株)地理人研究所を設立。都市や地図に関する情報を、多様な人につかみややすい形で提供する、地理情報の編集とデザインを本業とする(テレビドラマやゲームの地理監修・地図作成、記事執筆、企業研修、ワークショップ企画)。2013年、白水社「みんなの空想地図」刊行。
※今和泉さんはイベント当日は参加されません。

おりあい フェスタ

2018 3.18 sun 10:30~17:00
仙台コロナワールド

エントランスホール内 宮城県仙台市宮城野区福室字田中前1-53-1

アクセス情報 ●車/「仙台港IC」より南へ2km(車で5分)
●仙台市営バス/地下鉄東西線荒井駅前1番のりばから「鶴巻循環(15/16系統)」乗車、「鶴巻」下車、徒歩5分

●荒井駅発 時刻表 (2017年04月01日改正)					
系統	行き先	発車時刻			
15	若林体育館・宮城運輸支局経由 鶴巻循環	10:44	12:44	14:44	16:44
16	若林体育館・東部工場地経由 鶴巻循環	9:44	11:44	13:44	15:44

乗車時間:15系統 約20分、16系統 約11分

●問い合わせ
会場直通(イベント当日10:00~17:00のみ) 電話:050-3709-4225



トーク

西川 勝(にしがわまさる)

1957年、大阪生まれ。看護職員として精神科病院、人工血液透析、介護老人保健施設、高齢者介護の現場で20数年を過ごす。40代になって大阪大学の臨床哲学の活動に参画する。2005年4月から2016年3月までの11年間、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの特任教員として「ディスコミュニケーションの理論と実践」「認知症コミュニケーション」などの授業を担当した。現在は、認知症の人と家族の会大阪支部の副代表として「つくりの会」などの認知症カフェの進行役を務めている。著書は「ためらいの看護」(岩波書店)、「となりの認知症」(おねうま舎)など。

参加コーナー 展示

千葉雅俊(ちばまさとし)

みやぎシルバーネット 編集発行人
1961年、宮城県生まれ。広告代理店の制作部門で新聞社発行のタウン紙の編集に携わった後に独立。1996年に高齢者向けの月刊フリーペーパー「みやぎシルバーネット」を創刊。編集、デザイン、営業、配達まで一人でこなし、自由に伸び伸びと発行活動を継続中。情報満載の紙面は好評で、中でも投稿による川柳コーナーが大人気となり、「シルバー川柳」というジャンルを築くまでに。選者を務めた書籍に「笑いあり、しみじみありシルバー川柳」(河出書房新社)、著書としては「みやぎシニア事典」(金港堂)。

